



東洋公衆衛生学院 同窓会 会報 第12号

発行 〒151-0071 東京都渋谷区本町 6-21-7 東洋公衆衛生学院 同窓会 事務局
Tel 03-3376-8511 Fax 03-3376-4345 E-mail yama@toyo-college.ac.jp

コンテンツ

- 1 年頭のご挨拶 同窓会 会長
- 2 令和3年度を振り返って
- 3 令和3年度卒業式挙行
- 4 同窓生からのメッセージ
東洋公衆衛生学と私
- 5 寄稿
コロナ禍の社会人 1年生が学生生活を振り返って
- 6 令和3年度同窓会総会告示

年頭のご挨拶

同窓会 会長 小野寺 浩幸

新しい年を迎え令和も4年目になりました。

一昨年から続くウイルス感染症は、未だ出口がはっきりとしないものの世界的には規制が取り除かれる方向に進んでおり、遠くない将来には流行以前の状態に戻れるのではないかと期待が膨らみますが、まだまだ油断はできません。

この流行期間内にワクチン接種を急ピッチで行わなくてはいけないという状況が発生し、あくまで超法規的な措置としてではありましたがいくつかの職種のコメディカルに接種行為の許可が出ました。今回は緊急事態のための一時的な超法規的な措置としての許可でした。医師法という厳然とした法制度もとではこの許可は極めて稀な例であったわけですが、十分に医師が確保できない事態の発生に際してコメディカルに一定の役割を担わせるという事態は今後も発生するかもしれません。

また、多忙な医師の補助をすることも増えつつあり、コメディカルの職務範囲が広がってきていることは紛れもない事実です。それらに応えるためには、学校で学んだ知識だけでなく実務についてからも新しい知識や技術を身に付けていくことが重要です。

それらに関しては学会や技師会などでいろいろな取り組みがなされていますが、同窓会としてもその一翼を担いたいと考え、既卒生への支援事業を行う事も考えております。

こうした取り組みを実現するためには同窓生の参加が必要事項となりますので、同窓生諸兄におかれましては今度の同窓会事業へ是非ともご助力を賜りたいと思っています。

今後もなにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。



令和3年を振り返って

「同窓会活動を振り返って」

事務局 山口 聡

令和3年度も年度当初の第4波緊急事態宣言にはじまり、夏には第5波、そして現在は第6波と、この1年間もコロナ感染防止の制限下におかれた年であった。そのような状況下で年3回実施している役員会は昨年同様、全てメール審議にて対処した。同窓会活動は前年の反省を踏まえ、決意を新たに本年度に臨んだわけだが、またしてもコロナに出鼻を挫かれる結果となった。

昨年以上の活動が行えたとは言いがたいが、その分、同窓会活動がより機動的になるための仕組み、体制の変更に着手し、形に示せたことはコロナ禍での成果と言える。

この2年間、十分な活動、成果が残せなかったことについては反省すべきだが、次年度へ繋がる仕組みは構築できた。今後の活動において今までの遅れを取り戻すための準備は整い、役員一同が個々の役割を果たし、在校生・同窓生の期待に応えるために、一層の力を込めた活動に取り組むものと思っている。

「臨床検査技術学科の近況」

臨床検査技術学科 青柳 ますみ

今年度も COVID-19 の変異型との戦いでしたが、昨年度より With コロナの考えの基、感染対策に留意しながらできる限り学内で講義、実習ができるように努めました。

1、2年生はゴールデンウィーク後に2週間ほど online 授業になった以外は対面で行い、昨年よりは学生とのコミュニケーションもスムーズであったと思います。ただ、マスクをしたままですので、相変わらず学生の顔全体の確認が出来ないことは不利益でしたが、その分学生との会話から個人の様子を知らうと努めた事は教育の上では有効であったと思います。3年生は、昨年度よりは臨地実習の期間も長くなりましたが、やはり県を跨ぐ移動の制限などで、土曜の登校日や講義はほとんど online となりました。しかし、Google meet 機能を活かし、個人面談の回数が増加し、一人一人の不安や臨地実習への取り組みなどが確認出来たことは有効であったと思います。また、全身体調不良もなく国家試験を受験することができました。本当に最後まで諦めずによく頑張ったと思います。卒業式前には、3年生から2年生への今後のアドバイスの機会も設けることができ、4月から3年生に進級する学生達は真剣に先輩の話に聞き入っていました。頼りなかった3年生もこの日ばかりは“頼もしい先輩”の姿に変身し、私たち教員も目を細めて見守っていました。卒業式も縮小でしたが無事終えることができ、3月23日の国家試験合格発表が楽しみです。

「診療放射線技術学科の近況」

診療放射線技術学科 田中 宏和

全国で新型コロナウイルスの変異株がまん延する中、放射線科でも学生やご家族を含め、感染者・濃厚接触者がでております。幸いなことに国家試験直前の3年生関係の感染はなく、全員が無事に受験できたので、安心してるところです。1・2年生では期末試験期間中に濃厚接触者となり、自宅待機を余儀なくされたケースもありますが、このあたりは学生が不利にならないよう配慮した形で追試験を実施しています。

また、帰省する際に念のため受けたPCR検査で陽性が判明したこともあり、「無症状でも念のため検査を受けておこう」という感染拡大防止の意識がご家族を感染の危機から救ったケースもありました。

放射線科のコロナ対応としては、一人暮らしの学生が感染した場合、毎日の安否確認を実施しました。若者で無症状であっても急変対策として、2週間毎日連絡を取りました。何事も起こらず登校を再開できたので安心しましたが、一人暮らしの方の感染はこちらも構えてしまいます。

早く感染が収まって、元の学校生活に戻りたいと強く思います。

令和3年度卒業式挙行

まん延防止等重点措置が3月21日まで延長されるなか、臨床検査技術学科第54期生32名、診療放射線技術学科第40期生54名の卒業式が3月2日(水)ハイアットリージェンシー東京にて挙行されました。

卒業生および保護者の健康面、安全面を考慮し、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、残念ながら昨年を引き続き、保護者の皆様の会場への入場はできませんでした。卒業生は保護者への感謝とこれからの期待と不安が入り混じる心境だったと思いますが、晴れやかな姿で卒業式に臨んでいました。卒業生の今後の大いなる活躍を期待しています。



『東洋公衆衛生学院と私』

41期生 臨床検査技術学科 川口 港

私は高校時代から医療に携わりたいと思っており、悩んでいたところ、担任の先生から「臨床検査技師」という職業を教えてくださいました。「臨床検査技師」という職業を調べてみるとさまざまな分野で活躍していることがわかり、「縁の下の力持ち」という印象を強く感じたことを覚えています。自分も臨床検査技師になりたいと思い東洋公衆衛生学院へ進学しました。入学当初は専門分野の授業についていく

のが大変で自分自身の勉強方法が確立できず毎日苦勞したのを覚えています。2年生になるとレポート提出や病理学や血液学のスケッチに追われ友人と徹夜をした思い出があります。41期生については目つきが悪い学年だと言われ、生意気であった自分達を青柳先生や横田先生達は根気よく指導(怒られた?呆れられた?)していただきました。そんな自分達を最後まであきらめずにご指導していただき、今となっては感謝しかありません。卒業式で泣くつもりは全くありませんでしたが、号泣してしまい感謝の言葉を上手く伝えられなかったことを今でも思い出します。

思い入れが強く、非常に濃い3年間だったと実感しています。

41期生はなぜかガチャピンのぬいぐるみを教室に祭っていました。国家試験前には先生方から「ガチャピンのお守り消しゴム」が配られ、試験に臨みました。10年以上経った今でもそのお守りを大切に持っており、学会発表や試験時には必ず持参しています(内緒ですよ)。在学していた3年間は必至に勉学に励みながらも、同級生と近くの新宿で朝まで遊び楽しい日々で貴重な時間でした。

現在は国立国際医療研究センター病院の生理検査室に在籍し、主任臨床検査技師として働いています。もともと患者対応が苦手で、病理検査を熱望していましたが、紆余曲折し生理検査に配属されて10年ほど経ちました。資格取得や学会発表を行っていくと苦手な生理検査が今では1番得意であり大好きになりました。

当院の生理検査室は臨床検査技師のスキルを活かし、救急外来にも従事しておりタスク・シフト / シェア推進にも力をいれています。さまざまな処置補助業務の他に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、検体採取および抗原検査やPCR検査が大幅に増加しています。さらにオミクロン株の影響により急速に感染拡大が進んでおり、慌ただしい毎日を過ごしています。

学生時代は今だけです!よく遊び、よく学び、よく働く臨床検査技師を目指して下さい。

36期 診療放射線技術学科 磯貝 優斗

私は、高校まで野球に打ち込んでいて勉強なんてほとんどしてこない人生を送ってきました。そのため、その後の進路を野球で大学に行くのか、手に職をつける道に進むか悩んだときに一番影響を受けたのが「父親」の存在でした。「何かの形で人の役に立ちたい」という思いがあり色々と考えた結果、私の父親が国家資格である診療放射線技師だったので、その子供も同じ遺伝子を受け継いでいると思い、私も診療放射線技師になろうと東洋公衆衛生学院に入学しました。

入学して最初に思ったことは、私みたいなバカな奴が来るところではないと痛感しました。入学当初は、本当に診療放射線技師になれるのか不安や心配がありましたが自分で決めたことなので絶対に診療放射線技師になってやるという強い気持ちにもなれました。東洋公衆衛生学院での3年間は、こんなにテストやるのかよってくらいテストだらけの日々で卒業生の中で一番再試を受けて卒業したのではないかと私は思います。そのかいあって、毎回の進級会議に私の名前が挙がっていたのか先生方の中では違う意味で有名人になれたのではないのでしょうか?それでもこんな私を見捨てることなく勉強を教えてくださいました先生方をはじめ友達や先輩方の支えがあり何とか診療放射線技師になれたと思います。

卒業して3年程が経ちまして先生方が少し変わられたかもしれませんが、東洋公衆衛生学院の先生方は、学生思いの先生ばかりなので先生を信じ友達と切磋琢磨し、ひたすら過去問を解いて自信をつければ自然と結果は付いてくると思うので諦めずに頑張ってください。

【寄稿】コロナ禍の社会人1年生が 学生生活を振り返って

臨床検査技術学科 令和2年度卒 生駒 潤 (52期生)

1、2年生の頃は毎日遊んでいて、髪型や服装の事でよく注意を受けたり、睡眠時間も2~3時間程度しかとっておらず、授業中はいつも眠く、テストの点数もあまり良くなかった記憶があります。そんな私が医療人を意識し始めたのは、コロナが流行り始めてからでした。

学内ではオンライン授業の実施、パーテーションを使っての対面講義など、今までは考えられない事の連続でした。臨地実習に行った際には例年よりも期間が短く、半分程度しか実習期間がありませんでした。そのような短い実習期間の中でも感染制御をはじめ学内では得られない緊張感を感じ、技師とは医療人になるという事はこういう事かと実感してきました。

学生生活の中で3年生は正直地獄でした。今までの人生の中で1番勉強し、1番1つの事に没頭し、1番イライラし、1番周りと揉めた年だったと覚えています。その甲斐あって国家試験にも無事合格し、現在はやりたかった病理検査業務に従事できています。国家試験に合格にしたあの時の達成感は今までの人生で1番のものです。臨床検査技師になってからもずっと勉強の日々ですが、あの地獄の日々を思えばなんの苦でもありません。

これから国家試験を受ける学生の皆さんに言っておきます。3年生は地獄です。しかし、その先には今までの人生で1番の達成感が待っています。驕らずサボらず国家試験に向けて、またその先に向けて頑張ってください。

令和3年度 東洋公衆衛生学院 同窓会総会告示

標記について、下記要領にて開催いたします。

同窓会 会長 小野寺 浩幸

記

日時：令和4年4月2日(土) 13:30~14:30
場所：東洋公衆衛生学院 臨床検査技術学科校舎
東京都渋谷区本町6-21-7
総会：①令和3年度経過報告
②令和3年度会計および監査報告
③第一号議案 令和4年度事業方針(案)
④第二号議案 令和4年度予算(案)

※尚、葉書での総会案内は行いませんので、
職場・同窓生への周知をお願いします。

同窓生からの原稿を募集します！ 同窓会会報を同窓生のコミュニティの 場にしませんか？

卒業生の活躍を掲載したいと思います。
広く原稿を募集していますので、下記メールアドレス
まで投稿して下さい。

facebookでも情報発信中

@toyoCollegeAlumni

【編集後記】

2022年も新型コロナウイルスの第6波を経験しました。ワクチンの3回目接種も開始され、3月以降感染状況がどうなっていくか動向が注視されます。

さて、第12号を発行いたしました。コロナ禍での卒業式の様子やここ1年コロナに対する学院の取り組みや同窓会事務局からの対応も掲載しました。また、社会に出て1年目の先輩からのメッセージも掲載しました。在校生には必見のアドバイスとなっています。

新型コロナウイルスの終息がなかなか見えないなかでの社会活動ですが、感染対策を講じながら上手に付き合っていくしかないのかなと思っています。

在校生の学生におかれましてはコロナ禍での勉強は不自由なものがありますが、生活そのものに医療人としての自覚も備わっていくのではないかと期待もしています。患者さんから信頼される医療人となることを切に願っております。

私事ですが、平成30年から2期4年間、編集委員長を命じられ、5号から12号まで担当させていただきました。今年度をもって編集委員長を退任いたします。

在校生ならびに保護者の方、卒業生の皆様に学院の今の様子がわかる内容に努めてまいりました。これからも充実した内容で情報を発信してまいりますので、引き続きのご愛読とご支援のほどよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

編集委員長 国仲

東洋公衆衛生学院 同窓会事務局

151-0071 東京都渋谷区本町6-21-7

電話番号 03-3376-8511 FAX番号 03-3376-4345

メールアドレス: yama@toyo-college.ac.jp

いますぐホームページを
チェックして下さい。

